

ニッポン・セメント工場探訪

地域に根ざし、環境を守る

2

FUKUOKA TAGAWA

麻生セメント(株) 田川工場



福岡県のだ真ん中

麻生セメント(株)田川工場は福岡県のまさにど真ん中・おへそ、いや心臓の部分に位置しています。また現在放映真っ只中の大河ドラマで有名な戦国時代の武将「黒田官兵衛」ゆかりの地にも多数隣接しております。そんな名所旧跡についてもぜひご紹介したいところではありますが、にわか知識では歴史に詳しい方、また流行の「歴女」の方々に鋭い指摘を受けそうなのでここは本題の工場紹介に話を戻します。

80年の節目を迎えて

「ご安全に!!!」のあいさつが行き交い、「安全は何事にも優先する」という社の方針を貫徹すべく、最前線で「安全第一」に取り組んでおります麻生セメント(株)田川工場は、福岡県の中央部、豊富な石灰石資源に恵まれた田川市に所在しています(写

真1)。歴史は古く1934(昭和9)年3月に操業を開始し、2014年はちょうど80年の節目となります。工場は原料型ミル1基およびデンマークのF.L.スミス社製仮焼炉付キルン1基でクリンカーを製造し、これを4基のボールミルを用いて粉砕し製品として皆様にお届けしています。

当工場からは主にポルトランドセメントと高炉セメントをセメントバラ輸送車や25kg袋および1tのフレコン袋の荷姿で出荷しています。また地盤改良用途固化材の出荷にも対応しており、施工現場でほとんど発塵のないテフロン®処理防塵固化材「スーパーソリッドエース」もユーザーの皆様にご愛顧いただいております(写真2)。

工場の目標は「無災害」「高品質製品の安定供給」「設備故障撲滅」です。この3つの目標を基に、福岡県の心臓部に立地するという与えられた幸運と使命を全うすべく、セメント製品を供給する「動脈産



写真1 工場全景



写真2 防塵型セメント系固化材製造施設

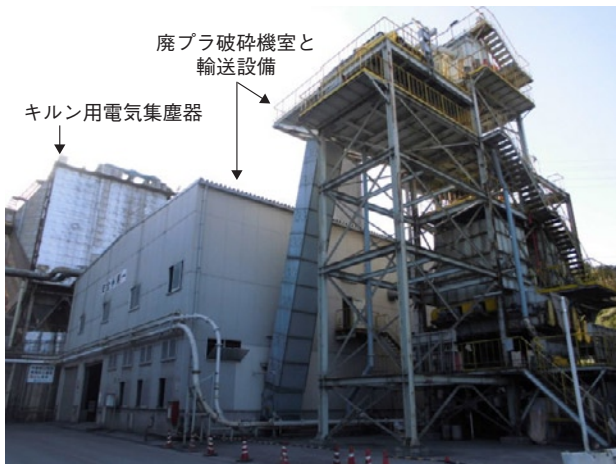


写真3 増設を行った設備



写真4 新型キルンバーナー

業」と、副産物・廃棄物であるスラグや建設残土等を九州一円を中心に受け入れて製品に変える「静脈産業」の基地として邁進しており、循環型社会の構築の一翼を担えることに従業員一同感謝していません。

循環型社会の構築と省エネルギー

ISO9001(品質マネジメントシステム)とISO14001(環境マネジメントシステム)による厳格で効率的な生産管理体制のもと、24時間安定した高品質の製品を提供すると同時に、環境保全に配慮した省エネルギー工場として、また社会貢献として環境にやさしい持続可能な循環型社会の形成をめざし、資源リサイクルに積極的に取り組んでいます。長年培ってきた経験と技術を活かし、資源としての副産物・廃棄物の活用を進め、最近では廃プラスチックの利用促進のため、2012年に破碎機の増設や搬



写真5 蛍の舞うようす(長時間露出で撮影)

送機器の充実を図り、2013年に新型のキルンバーナーを導入しました(写真3、4)。

環境対策 ～蛍の舞う工場～

環境対策では、環境関連の設備更新や常に最高の能力を発揮できるよう日々点検・整備を実施し、大気汚染・水質汚濁防止等に努めております。その結果として、工場が胸を張って皆さんに発信できる環境指標として、毎年6月上旬に工場内を流れる川で「蛍」の舞う姿を観察できることです。

2003年に蛍生息の気配を確認し(もっと以前からの目撃証言はありましたが)2004年より工場事務所前にて定点観測を開始して早や10年を経過しました。腕に覚えのある従業員が毎年写真撮影をし、社内に発信しております。九州の6月上旬と言えば昼間の余韻で薄暗く、とは言え蛍の舞う時間帯は午後8時から午後9時頃がピークで時間が限られるうえ、湿度が高い等の自然条件が揃うこともより良い撮影に適しているといえます。一方では車両や沿線の列車が通るさいの光源、工場の照明が阻害要因となってしまう等、撮影条件はなかなか困難を極めるのですがその間隙をぬった成果を写真5に示します。今年2014年も、もうすぐ蛍の季節です。従業員一同環境への配慮に自信を持ちつつ、一方では、



写真6 工場周辺の公道での清掃活動



写真7 見学中の小学生らと川内工場長(左端)

一切妥協のない自然からの「環境対応評価」としてドキドキしながら蛍の乱舞を待っている次第です。

また、グローバルな観点からは1997年に全国ブロックごとに実施された「フロン破壊モデル事業」に九州代表として実証実験に参加し成果を報告しました。オゾン層の破壊という地球環境保全に少しでも役立てればと思っています。

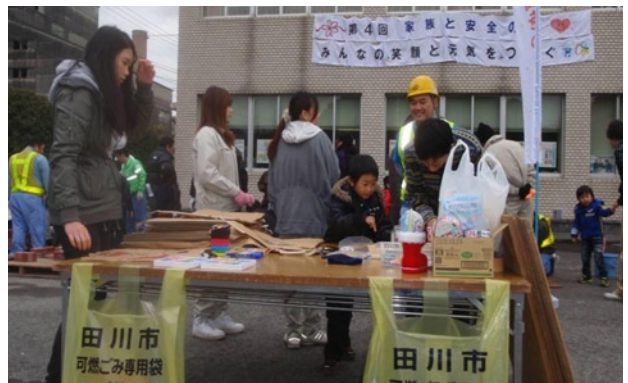
地域とともに歩む

お盆前の盛夏の候、また年末の厳冬の候に、日頃、工場の稼働にご協力いただいている地域の方々への感謝を含め、またこの時期に帰省される方に綺麗な故郷に戻ってホッとしていただくため、そして旅で立ち寄られた方々に空気の澄んだ環境を感じていただければと思い工場従業員と協力業者社員全員参加で工場周辺の1.5kmにおよぶ公道を清掃しております(写真6)。

開かれた工場をめざす立場から工場見学も、小学生や中学生向けの社会科見学、高校生や大学生の企業体験、企業の研修等目的や希望に沿うよう実施しています。最近「工場萌え」ブームのおかげか、弊社工場での受け入れの可否を問い合わせただけの回数が飛躍的に増えております。セメント工場が、地域で果たしている役割とその存続意義を、情報として外部に向けて発信できる最高の機会として



救助犬の活動を紹介するコーナー(右は弊社社長の麻生泰)



多くの人でにぎわう工作体験のコーナー

写真8 家族と安全の日

とらえ、ひとりでも多くの方に来場していただき、我々の活動を理解して頂けるよう、操業の都合と照らし合わせながら対応しております(写真7)。

地域を含む関係者全員の安全を願って開催する「家族と安全の日」には従業員や協力会社従業員、地元の方々やそのご家族の皆様に来場していただき



写真9 職場での朝のミーティング



写真10 安全報告会

工場の環境・安全・衛生に関する取り組みを楽しくわかりやすく伝えることにも取り組んでおります(写真8)。

さらに意外と知られていないようですが、セメント工場は電力供給量の平準化に応じ、セメントミルの夜間・日祝祭日運転を実施しています。また、夏場は尖頭時と呼ばれる空調設備の稼働がピークとなる平日昼間帯(午後1時～午後4時)を中心に、電力事情が厳しいことに配慮して、工場内の設備は可能な限り停止し、各種機器の空調設備等の稼働も極限まで調整して電力需要を抑制し、地域の電力供給安定に協力してきました。さらに最近では、厳冬期にも暖房用の電力確保の観点から、朝8時～夜10時までと、かなり長時間帯の設備稼働の抑制が必要



写真11 工場入口の安全方針(上)と英文併記の注意喚起

となりますが、地域の生活安定に繋がることを願いつつ、できる限りの協力をしています。

なお、万が一の電力供給量不足の際は、最後の手段として24時間連続稼働のキルンさえも緊急停止する体制を整え、心の準備をしています。

工場の安全とグローバル化

来場していただいた方々にも「安全」そして「安心」というお土産をお持ち帰りいただければとお声掛けをしています。これらの活動が評価され、安全に特化した見学に再度来場される方や他社から安全に対する情報交換の要望、また相手先の安全講演会へ弊社からの講師派遣要請をいただくほどの文化に成長しています。

2014年度工場安全標語は「声掛ける あなたの勇気が命綱 危険行為は迷わず注意 皆で築こう ゼロ災職場」です。



毎朝、各職場での安全ミーティングに始まり、お昼前に参加可能な従業員と協力会社社員が集まり安全に関して気づいた良い点・悪い点を忌憚なく互いに指摘し合う安全報告会を実施しています(写真9, 10)。またヒヤリハット報告も積極的に提出し、ひたすら安全な工場を目指しています。さらに、グローバルな工場を目指す立場から安全に関する掲示板も英語併記となっています(写真11)。一方、その見地から社内では語学力の向上に努めており、英会話教室・語学研修・TOEICへの参加などが盛んに行われています。その結果として海外からのゲストに対してダイレクトなコミュニケーションにつなげたいと考えていますが、まずは挨拶だけでも「おもてなし」の心を伝えられれば何よりです。工場訪問の

さいにはぜひ英語で話しかけてみて下さい。英語で返事があるかはお楽しみですが…。

おわりに

当工場はJR田川後藤寺線船尾駅の真ん前に位置しております。車でお越しになるのも良いのですが、お時間にゆとりのある方は是非ローカル線で流れゆく筑豊地区の風景を楽しみながら私達の工場を目指されるのも一興かと思えます。たくさんの方のご訪問を工場関係者全員でお待ちしております。そしてどうぞ皆様ご安全に!!

[麻生セメント(株) 生産部 生産技術グループ

安武計治]